

「美」への夢育てる

松葉美幸バレエスクール



緑の茂みに囲まれた古風な館の石段を上り、松葉美幸バレエスクールと記された扉を開けて中へ入るとすぐに稽古場の広がりが目に入る。右サイドの壁面は全面鏡、フロアの所どころに細い鏡の張られた柱が立っていて天井からのライトに反射して美しい幻の空間を見せる。その中央に数台のバーが設置され、バーを挟んで小さなダンサー達が懸命に踊っている。ブルーのレオタードにピンクタイトの稽古着姿が可愛い……。ジュニアクラスのレッスンは始まっていた。足の位置や基本姿勢を決める練習、時々先生の鋭い指導の声がかかり緊張が走ります。それではご紹介いたします。指導されているのはこのスクールの創設者で舞踊家・振付家の松葉美幸さんです。松葉さんがこの大阪狭山市山本の地にクラシックバレエの学校を設立されて今年で21年目を迎えられます。市内



唯一のバレエスクールとして市民の子弟子女にクラシックバレエを教え、毎年市民会館で発表会を催し、クラシックバレエの紹介とその普及に努めてこられ、今は教え子達が各地のバレエコンクールで優秀な成績を修めています。一見小柄で優しい松葉先生ですが、その指導の厳しさには定評があります。レッスンの最中遅れて入ってきた生徒が恥ずかしそうに小声で挨拶し姿勢をかかめて着替えに行こうとしたら、「待ちなさい！」と先生の声。思わず立ち止まった生徒に「挨拶はどんな時でも立ち止

入り細かい注意や直しが続きます。集中の時間が過ぎレッスンは終わりました。緊張が解けたところで少し質問をしました。

貴女たちにとってバレエとは…？

「生き甲斐です。」「私のバックボーン」「美の追求」「達成感」「二生の憧れ」「舞台芸術への学びの指針」「生きてゆく規範」「「礼儀の先生」等々。

ジュニアの生徒達にも聞きました。

「楽しい、ずっと続けたい。」「頑張りたい。」「しっかり練習して外国で踊りたい。」「コンクールで優勝してプロのバレリーナになりたい。」



まっぴはつきりと相手の目を見てするものです。挨拶が疎かだと全てが疎かになります。筆者はこれが松葉美幸バレエスクールの基本理念なのだとなりました。「人間関係は礼儀が第一、まず挨拶です。挨拶をきちんとする。それが社会人としてのルールでありマナーです。全ては挨拶から始まるのです。」ジュニアクラスのレッスンは終わりに生徒達にお母さんの迎えが来て「ありがとございました」ときちんと挨拶を残し帰って行きました。さて、レッスンは上級生に移りました。上級生は黒のレオタードにピンクタイト、それにトゥシューズを履いてのレッスン姿、レッスンはジュニアと同じようにバレエレッスンから始まります。年齢は中学生から成人女子までかなりの開きがありますが、既に数々のコンクールに出場入賞もしている中堅のダンサーです。バーを使って基本を確認します。さすが上級生クラス、



最後に上級クラスの中で最年少、中学二年生の片岡里咲乃さんに将来の夢を語ってもらいました。

「3歳から松葉先生の指導でバレエの基礎を学びコンクールにも入賞、また海外留学の経験も出来ました。海外では外国人のスタイルに圧倒されましたが、しかし日本のバレリーナに吉田都さんのような素晴らしい先輩がおられるので世界で活躍できるダンサーになるのが夢です。音楽の数だけ踊りもあるのだと思うと勇気が出ます。」

「美しい心が美しい身体を造り、美しい踊りを創ります。人間としての成長が美しい踊りになるので。」熱く語られた松葉先生。バレエを通して美しい心を育てられた白鳥たちがこのスタジオから大きく飛び立つてゆく、そここそが松葉美幸先生の夢なのでしょうね。⑤



松葉美幸 バレエスクール

大阪狭山市山本東6-1
(池之原北交差点すぐ)
TEL:072-366-8870
【開講日時】詳しくは問合せ



【ポジション】
ダンサーの基本姿勢。主に足の位置のこと。
【アラバस्क】
片脚で立ち、もう一方の脚を後ろにまっすぐ伸ばし上半は優雅なカーブを描くポーズ